学校番号	102

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校改訂版　世界史Ａ　（第一学習社）						
副教材等	最新世界史図説タペストリー 十九訂版（帝国書院）、新世界史要点ノート応用編（啓隆社）、世界史A読本 改訂版（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人名や用語、事件や地名などの語句を丸暗記することを目指すのではなく、概念としてとらえることを目標にしてください。
・勉強法の前提としてですが、入念に予習を行い、授業に集中してしっかり取り組むことがまず肝心です。授業の内容をその時間でしっかり理解すれば、復習に時間を割く必要はなくなります。その為にも、予習する時間を大事にしましょう。
・予習の仕方ですが、教科書を読んで全体の流れを押さえましょう。語句や年号を覚えることに時間をかける傾向がありますが、それよりも「概念」をとらえることが重要です。
・復習の仕方ですが、授業の担当者がどのような説明を行っていたか、その時自分はどんなことを考えていたかを思い出すようにしましょう。語句の説明や意味を暗記することに時間をかける傾向がありますが、授業にどのように臨んでいたかを思い出して、自分の学び方を反省する時間にしましょう。

２　学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題を近現代史を中心とする歴史と結びつけ、歴史的観点から考察することができる。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる国際市民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する国際市民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査	・提出課題 ・定期考査	・提出課題 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
一学期	第1編　世界史へのいざない	第１章　自然環境と歴史		○	○	○	○	a:地理とのつながりで歴史に対する関心を高め，世界史学習への意欲が高まっている。 b:人と海とのかかわりについて，具体例をふまえて考察している。 c:教科書の地図やグラフ，写真が示す内容や意味を読みとることができる。 d:海流や季節風の特徴と，その歴史とのかかわりについて理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第２章　日本列島のなかの世界の歴史		○	○	○	○	a:中学校までの学習を発展させ，世界の歴史に視野を広げている。 b:鉄砲伝来の世界史的意味を，当時の交易のあり方をふまえて考察している。 c:倭寇の活動と鉄砲伝来の関係について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d:鉄砲伝来が世界史的事件であったことを理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第2編　世界の一体化と日本	第1章　ユーラシアの諸文明	1節　東アジア 風土，中国の王朝の変遷，中国を中心とした国際秩序，漢字，宗教や思想などから，日本を含む東アジアの特質を理解する。	○	○	○	○	a:　東アジアの特質に対する関心を高め，東アジアにおける国際秩序について意欲的に追究しようとしている。 b:　漢字・儒教・仏教・道教など，東アジアの特質について，日本の文化とも関連付けて多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c:　風土・生活・文字・思想に関する様々な資料を収集し，東アジアの特質に気付くことができる。 d:　中国の皇帝政治，冊封関係，漢字文化圏，儒教・仏教・道教など，東アジアの特質を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			2節　南アジア 多様な風土と民族からなる南アジアが，宗教と社会制度を共通の基盤として一つの地域世界を形づくったことを学習する。	○	○	○	○	a:　仏教の歴史的意義を考察し，ヒンドゥー教とイスラームが南アジアに及ぼした影響について，意欲的に追究しようとしている。 b:　各宗教が南アジアに及ぼした影響について，具体的な事例をもとに考察し，その結果を適切に表現している。 c:　各宗教が南アジアに及ぼした影響について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d:　風土と諸民族，仏教，ヒンドゥー教とイスラームなど，南アジアの特質を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
一学期	第2編　世界の一体化と日本	第1章　ユーラシアの諸文明	3節　東南アジア 東南アジアが南アジア，東アジアの影響を受けて独自の世界をつくり上げていったことを学習する。	○	○	○	○	a：東南アジアの宗教について，関心をもって学習しようとしている。 b：東南アジアの社会・文化について，中国文化・インド文化の影響と関連付けて多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：東南アジアの諸王朝について，位置を地図に表すことができる。 d：東南アジアの諸王朝の特徴について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			4節　西アジア 西アジアに生まれたイスラームが，広大な地域に急速に拡大し，独自の世界を形成したことを学習する。	○	○	○	○	a：イスラームが広大な地域に拡大することができた理由について，意欲的に追究しようとしている。 b：ユダヤ教・キリスト教・イスラームの特色について，現在の宗教対立と関連付けながら多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：ユダヤ教・キリスト教・イスラームに関する様々な資料を収集し，３つの宗教の相違点に気付くことができる。 d：風土と諸民族，オリエントとイラン文明，イスラームの成立と発展の経過などを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			5節　ヨーロッパ ギリシア・ローマ文明の伝統とキリスト教によって一つの文明を形成したヨーロッパ世界の特質を理解する。	○	○	○	○	a：キリスト教と日常生活とのかかわりについて，関心をもって学習しようとしている。 b：キリスト教がヨーロッパ文明の基調となり今日まで受け継がれていることを，思想・文学・日常の慣行や儀礼などの具体的事例をもとに考察し，その結果を適切に表現している。 c：風土・生活・民族・文化に関する様々な資料から，ヨーロッパ世界がギリシア・ローマ文明の影響を受け，キリスト教を基調として一つの文明を築いたことを読み取ることができる。 d：風土，ギリシア・ローマ文明，キリスト教，封建社会，都市の繁栄など，ヨーロッパ世界の特質を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
一学期	第2編　世界の一体化と日本	第1章　ユーラシアの諸文明	6節　アフリカ 大河の流域ごとに，アフリカの諸王国の特徴を理解する。	○	○	○	○	a：古くから独自の文明や王国が存在したことに関心を高めている。 b：アフリカ西部や東部海岸でおこなわれた交易の特徴を考察し，その結果を適切に表現している。 c：アフリカ各地に興亡した諸王国について，位置を地図に表すことができる。 d：アフリカの諸王国の特徴やイスラームの影響，交易の様子を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			7節　アメリカ アメリカの文明の独自性，メソアメリカ文明圏とアンデス文明圏の特色について理解する。	○	○	○	○	a：高度に発達した石造技術や天文学などから，アメリカ大陸の文明に関心を高めている。 b：アメリカの文明の特色を，ユーラシアの諸文明と比較して考察し，その結果を適切に表現している。 c：メソアメリカ文明圏とアンデス文明圏の特色について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：メソアメリカ文明圏・アンデス文明圏共通の特色や文明圏ごとの特色について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			8節　ユーラシアの海の交流 ユーラシアの諸海域を結ぶ海域世界の成り立ちと，ネットワークの概要，交流の具体的様相を学習する。	○	○	○	○	a：海のネットワークが果たした歴史的意義について，関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：ムスリム商人の活躍の背景について，商業を重視するイスラームの特色と関連付けて考察し，その結果を適切に表現している。 c：海のネットワークが果たした歴史的意義について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：ムスリム商人や中国商人による海のネットワークの形成について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			9節　ユーラシアの陸の交流 遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化の過程を学習する。	○	○	○	○	a：陸のネットワークが果たした歴史的意義について，関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：モンゴルによるユーラシアの一体化の背景について，モンゴル帝国の特色を踏まえて考察し，その結果を適切に表現している。 c：モンゴルによるユーラシアの一体化について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：遊牧国家の特徴やモンゴルによるユーラシアの一体化について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
一学期	第2編　世界の一体化と日本	第2章　結びつく世界と近世の日本	①14～15世紀の東アジア ②14～15世紀のアジアの海 ③16～17世紀のアジアの海 ④清と東アジア ⑤内陸アジア・南アジア世界の再編 ⑥オスマン帝国とサファヴィー朝 14 世紀から 18 世紀にかけての陸と海の動向を学習し，アジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解する。	○	○	○	○	a：東アジア・東南アジアの海域における日本の位置付けについて，意欲的に追究しようとしている。16 世紀から 18 世紀にかけてのイスラーム諸国の動向とヨーロッパとの関係について，意欲的に追究しようとしている。 b：アジア諸帝国の繁栄について，ヨーロッパ人による「大航海時代」の前提となったという視点で考察し，その結果を適切に表現している。イスラーム世界の成熟について，オスマン帝国の宗教政策の視点から考察し，その結果を適切に表現している。 c：14 世紀から 18 世紀にかけてのアジア諸地域の動向や特質について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：明・清帝国と朝鮮・日本との関係，東南アジア海域世界，オスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の動向について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
			⑦ヨーロッパの「大航海時代」 ⑧アメリカ大陸の変容 ⑨ルネサンスと宗教改革 「大航海時代」のヨーロッパとアフリカ，アメリカとの接触・交流を学習し，16 世紀の世界の一体化への動きを理解する。	○	○	○	○	a：「大航海時代」の背景について，第 1 章で学習した内容と関連付けて理解しようとしている。ヨーロッパの進出がアメリカ大陸に与えた影響について，関心をもって学習しようとしている。 b：「大航海時代」が果たした歴史的意義について，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。ヨーロッパの進出がアメリカ大陸に与えた影響について，今日の状況を鑑みながら考察し，その結果を適切に表現している。 c：「大航海時代」のヨーロッパとアフリカ，アメリカとの接触・交流を考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。教科書に関連する美術作品などを，教科書以外の書籍などを利用して調査している。 d：「大航海時代」の幕開けがアフリカ・アメリカ大陸にもたらした影響について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
一学期	第2編　世界の一体化と日本	第2章　結びつく世界と近世の日本	⑩ヨーロッパ主権国家体制の成立 ⑪17～18世紀のヨーロッパ諸国 ⑫世界商業の展開 ⑬科学革命と啓蒙思想 ヨーロッパに成立した主権国家体制や大西洋貿易の展開を学習し，17･18世紀の世界の特質を理解する。	○	○	○	○	a：主権国家体制の確立からイギリスが海上覇権を握るまでの経緯を関連付けて理解しようとしている。貿易の拡大によるアフリカ・アメリカ・ヨーロッパの社会と文化の変容について，意欲的に追究しようとしている。 b：ヨーロッパ諸国の国際関係の推移を時代ごとに考察し，その結果を適切に表現している。世界の一体化とそれに伴うアフリカ・アメリカ大陸の変容について，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：ヨーロッパ諸国家の変遷と国際関係の推移について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。世界商業の展開やヨーロッパ社会の変容について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：主権国家体制の特色とヨーロッパ国際関係の推移，オランダからイギリスへの海上覇権の推移，ヨーロッパ社会の変容について理解し，その知識を身に付けている。	･授業態度 ･発問評価 ･提出課題 ･定期考査
二学期		第3章　ヨーロッパ･アメリカの工業化と国民形成	①農業社会から工業社会へ―産業革命 ②労働運動と社会主義のはじまり ③アメリカ独立革命 ④フランス革命 ⑤イギリスに挑戦したナポレオン ⑥大西洋をはさんだ革命 イギリス産業革命の背景を世界史的視野からとらえ，産業革命の結果，資本主義経済が確立したことを理解する。アメリカ独立革命･フランス革命によって，市民の政治的発言権の拡大が進み，国民国家形成の動きが生まれたことを理解する。	○	○	○	○	a：イギリス産業革命の背景と展開，産業革命がもたらした社会の変容について意欲的に追究しようとしている。アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立の背景と影響について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。 b：イギリス産業革命の背景と，産業革命がもたらした社会の変容について考察し，その結果を適切に表現している。アメリカ独立革命・フランス革命・ラテンアメリカ諸国の独立の関連性や，それらの革命の歴史的意義について，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c：イギリス産業革命の背景と展開，産業革命による社会の変容について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。アメリカ独立革命やフランス革命，ナポレオンの時代，ラテンアメリカ諸国の独立について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d：イギリス産業革命の背景と展開，資本主義経済の確立，労働運動や社会主義思想について理解し，その知識を身に付けている。アメリカ独立革命，フランス革命，ナポレオンの時代，ラテンアメリカ諸国の独立の経過を把握し，革命の意義・影響について理解を深めることができる。	･授業態度 ･発問評価 ･提出課題 ･定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
二学期	第2編　世界の一体化と日本	第3章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	⑦ウィーン体制 ⑧イギリスの繁栄 ⑨二月革命と第二帝政 ⑩イタリアとドイツの統一 ⑪ロシアの近代化とバルカン半島 ⑫アメリカ合衆国の膨張 ナポレオン戦争を通じて広まった国民主義がウィーン体制下で自由主義とともに高まりを見せ，イタリアやドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。西部への領土拡張と移民の流入，先住民やアフリカ系奴隷に対する抑圧がアメリカの国民形成に独自の性格を与えたことを理解する。	○	○	○	○	a: ウィーン体制の特色とその崩壊の過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。ロシアの対外進出とそれに伴う諸国の対立について意欲的に追究しようとしている。アメリカ合衆国の発展と移民の流入，人種問題について関心を高め，意欲的に学習しようとしている。 b: ウィーン体制が崩壊するに至った背景について，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。19 世紀後半以降のヨーロッパ諸国の利害対立と第一次世界大戦との関係について考察し，その結果を適切に表現している。先住民に対する抑圧，奴隷制や奴隷解放後の人種分離などとアメリカで現在まで続く人種差別との関係について考察し，その結果を適切に表現している。 c: ウィーン体制の成立から崩壊の過程，イタリアとドイツでの国民国家形成について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。アメリカ合衆国での西部開拓の経過と先住民に対する抑圧，奴隷制や人種・民族問題について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: ウィーン体制の成立から崩壊の過程について理解している。ロシアの近代化とバルカン情勢について把握することができる。アメリカ合衆国における白人による西部開拓と先住民に対する抑圧，南北戦争と資本主義の進展，奴隷制や人種・民族問題について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
二学期	第2編 世界の一体化と日本	第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本	①世界市場の形成 ②オスマン帝国の衰退と西アジア ③南アジアの植民地化とインド帝国 ④東南アジアの植民地化 ⑤清の動揺 ⑥明治維新と東アジア ⑦中国分割の危機と日本 ⑧アジア諸国の変革 ヨーロッパ列強のアジア進出の特色を，ヨーロッパにおける資本主義の発展と関連づけて理解する。ヨーロッパの進出によるアジア諸国の変容を学習し，19 世紀の世界の一体化を理解する。ヨーロッパの植民地支配によるアジアの変貌と諸民族の民族的覚醒について理解する。	○	○	○	○	a: ヨーロッパの進出によってアジア諸国がどのように変容したかを理解しようとしている。日本の近代化の背景とその影響を，当時の国際情勢をふまえて，意欲的に追究しようとしている。アジアの変貌と諸民族の民族的覚醒について関心をもって学習しようとしている。 b: ヨーロッパの進出によるアジア諸国の変容について，アジア諸国の抵抗や近代化の動きにも着目して考察し，その結果を適切に表現している。日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察し，その結果を適切に表現している。アジア各地の民族運動の特徴について考察し，その結果を適切に表現している。 c: ヨーロッパの進出の過程と，それにともなうアジア諸国の文化・社会の変容について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: ヨーロッパ列強のアジア進出に対する，オスマン・ムガル・清帝国などのアジア諸国の動揺と改革や日本の動向について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
	第3編 地球社会と日本	第1章 帝国主義の時代	①帝国主義の時代 ②列強の世界政策 ③アジア太平洋地域の分割とロシア 帝国主義時代における列強の世界政策の様相を学習し，植民地支配の広がりについて理解する。	○	○	○	○	a: 帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したかを，意欲的に追究しようとしている。 b: 帝国主義列強の植民地支配について，民族・国境など現在まで残る問題と関連付けて考察し，その結果を適切に表現している。 c: 帝国主義列強の植民地支配について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: 帝国主義列強の世界政策と植民地支配について理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
二学期	第3編　地球社会と日本	第2章　急変する人類社会	大衆の登場と国民統合 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化を把握し，現代社会の原型が成立したことを理解する。	○	○	○	○	a: 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての社会の急激な変化について，現代の社会と関連付けながら考察しようとしている。 b: 公教育の普及が果たした役割について考察し，その結果を適切に表現している。 c: 教科書に掲載している諸資料から大衆文化の発達や公教育の普及を読み取ることができる。 d: 大衆社会と大衆文化，公教育の普及と国民統合の内容を把握し，社会の急激な変化を大まかにつかんでいる。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第3章　世界戦争と平和	①第一次世界大戦 ②ロシア革命と大戦の終結 ③ヴェルサイユ・ワシントン体制 ④アメリカとヨーロッパ ⑤東アジアの民族運動 ⑥アジアの独立運動とラテンアメリカ 第一次世界大戦から 1920 年代の国際政治の大きな流れを学習し，国際社会の枠組みの変化を理解する。	○	○	○	○	a: 第一次世界大戦の原因について，これまでに学習したことと関連付けて理解しようとしている。第一次世界大戦の性格について，これまでの戦争との違いを探し出そうとしている。第一次世界大戦の歴史的意義について，意欲的に追究しようとしている。 b: 第一次世界大戦の原因と影響について，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。ソ連成立の政治的・思想的影響について考察し，その結果を適切に表現している。第一次世界大戦後の世界の変化について，第二次世界大戦へとつながった問題点を含め，多角的に考察し，その結果を適切に表現している。 c: 教科書の諸資料から，第一次世界大戦の性格，戦後の世界の変容について読み取ることができる。ロシア革命の展開，社会主義国ソ連の動向について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: 第一次世界大戦の原因・性格・影響や，ロシア革命の展開，国際連盟の役割，ヴェルサイユ・ワシントン体制の特徴，アジア諸国の民族運動の高揚などを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
二学期	第3編　地球社会と日本	第3章　世界戦争と平和	⑦世界恐慌 ⑧ファシズムの台頭 ⑨日本の軍国主義と中国 ⑩第二次世界大戦の勃発 ⑪第二次世界大戦の終結 世界恐慌からファシズムの台頭を経て第二次世界大戦終結にいたるまでの政治・経済の動向を理解する。	○	○	○	○	a: 世界恐慌からファシズムの台頭，第二次世界大戦に至るまでの過程を互いに関連付けながら学習しようとしている。第二次世界大戦の歴史的意義について，意欲的に追究しようとしている。 b: ファシズムが台頭する背景について多角的に考察し，その結果を適切に表現している。第二次世界大戦の性格について，現在まで残る諸問題にも着目しながら考察し，その結果を適切に表現している。 c: 世界恐慌の原因と影響，各国の恐慌対策，ファシズム台頭の背景と経過，第二次世界大戦の原因や性格などを考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: 世界恐慌の原因と影響，各国の恐慌対策，ファシズム台頭の背景と経過，第二次世界大戦の原因や性格などを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
三学期		第4章　三つの世界と日本の動向	①戦後世界の出発 ②戦後の東アジア ③アジア諸国の独立 ④戦後の西アジア・アフリカ ⑤第三世界の台頭とラテンアメリカ ⑥変容する冷戦 ⑦中国の動揺とベトナム戦争 米ソ両陣営の対立や民族独立運動の展開を学習し，1970 年頃までの世界の政治・経済の動向を理解する。	○	○	○	○	a: 米ソ両陣営の対立が世界各地に与えた影響について，意欲的に追究しようとしている。第二次世界大戦後の各地域の動向について，現在の世界情勢とも関連付けながら学習しようとしている。 b: 冷戦の背景について，第二次世界大戦中の国際関係も復習しながら考察し，その結果を適切に表現している。経済格差や民族問題など現在に残る課題にも着目して，第二次世界大戦後の各地域の動向を考察し，その結果を適切に表現している。 c: 第二次世界大戦後の国際関係や，各地域の動向を教科書に掲載している地図から読み取ることができる。米ソ両陣営の対立や民族独立運動の展開について考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。 d: 米ソの対立による冷戦体制がヨーロッパでの東西対立だけでなく，アジア各地にも大きな影響を与えたことを把握し，各地域の戦後の動向を大まかにつかんでいる。冷戦の転機の背景と，緊張緩和への経緯を理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

学期	単元名	学習内容		主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
三学期	第3編 地球社会と日本	第5章 地球社会への歩みと課題	①アメリカ合衆国の動揺 ②東アジア・東南アジアの変容 ③西アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変容 ④冷戦の終結 ⑤経済のグローバル化 ⑥冷戦後のアメリカと国際社会 ⑦21 世紀の世界と日本 1970 年代以降の地球社会形成に向けての，諸地域世界の情勢の大きな流れを理解する。	○	○	○	○	a: 1970 年代以降の地球社会形成に向けての，諸地域世界の情勢について，意欲的に追究しようとしている。現代社会の問題点を把握し，その解決のために日本が果たすべき役割について積極的に考察しようとしている。 b: 冷戦終結後の東欧諸国とソ連の社会主義体制崩壊の歴史的意味を多角的に考察し，その結果を適切に表現している。1970 年代以降の世界情勢の変化と問題点を把握し，国際社会における日本の役割について考察し，その結果を適切に表現している。 c: 1970 年代以降の世界情勢の変化と問題点を考察する際，教科書の諸資料を適切に活用している。新聞やインターネットなどから国際社会の新しい動きや問題点についての情報を収集し，活用することができる。 d: 1970 年代以降の地球社会形成に向けての，諸地域世界の情勢の大きな流れを理解し，その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
		第6章 持続可能な社会への展望	①地域紛争と国際社会 ②核兵器と人類の生存 ③地球環境問題 教科書の3つの主題を参考に現代社会の特質や課題について自ら主題を設定して探究し，持続可能な社会の実現について展望する。	○	○	○	○	a: 現代社会の特質や課題に関する主題について，歴史的観点から資料を活用して，意欲的に探究しようとしている。 b: 現代社会の特質や課題に関する主題について，探究した成果を論述したり，討論したりしている。 c: 現代社会の特質や課題に関する主題を設定して探究する際，図書館やインターネットを利用して，適切な資料を収集し，活用することができる。 d: 現代社会の特質や課題に関する主題について，主体的な探究をとおして，歴史的視野から認識を深め，持続可能な社会の実現について展望している。	・課題レポート ・課題発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。